

葉山町子ども・子育て会議 委員自主打合せ結果（第 6 回）

- 1 開催日時
平成 26 年 12 月 13 日（土） 19 時～21 時 30 分
- 2 開催場所
葉山町役場 職員食堂
- 3 出席者
（委員）
柴田みゆき委員、鹿嶋千尋委員、野北康子委員、菅原美子委員、鈴木佳野委員、木下智美前委員、井上恵子前委員（委員 5 名、前委員 2 名出席）

（子ども育成課）
大圃主査（1 名）
- 4 内容
 - (1) 次回イベントの企画
1 回目が 2 月 15 日（日）、2 回目が 3 月 1 日（日）、いずれも 13 時 30 分～16 時の予定で会場は教育委員会研修室（会議室）
導入を 30 分くらいとし、残りをグループワーク（意見交換）や発表の時間にあてる。導入は、講師からの話が 20 分、町の現状報告が 10 分。
内閣府の勉強会のように、チラシに「参加型勉強会」や「ビジョンを描こう」という言葉を使うと関心を持ちやすいのではないか。
「利用者支援事業」も「親子で行ける場所」も、基本的には小学校未就学のお子さんをもつ保護者を対象とする。それ以外の人参加も可。
チラシについて、お母さんが関心もちやすい吹き出しを委員で考える。
託児は町で用意することにし、何人分を確保できるか委員に事前に伝える。足りない判断した場合は、別の方法を検討する。
町のいろいろな課でイベントを行っているが、託児がないのはトレンドではないと思う。託児の実施方法の見直しが必要ではないか。
 - (2) テーマ 1 「利用者支援事業」
横浜市は「保育コンシェルジュ」として保育に絞った相談にしているが、相談は何でも受けてもらえる方がよい。

相談が必要となる局面として、子どもが生まれたとき、転入したとき、幼稚園や保育園を利用するとき、仕事を再開するときなどがある。

葉山は自治体として小さいので、地域密着の傾向がある。転入すると孤立しがちで、土地勘もない中、地域にどう入っていったらよいかわからない面がある。

医療機関、困ったときの預け先、親子の居場所などの地域情報がほしい。居場所については、特にアレルギーの子やダウン症の子などが集まる場所が知りたい。

親はたいしたことかそうでないかもわからず不安を抱えている。気軽に話を聞いてくれる人がほしい。役場に電話するのはハードルが高い。

幼稚園の場合は、お母さんたちで話すことが多い。園バスを待つときに話したりする。保育園の場合は、お母さんが話す機会が少ない。0～2歳のお母さんは精神的にしんどいと思う。

(3) テーマ2「親子で行ける場所」

「子育てひろば事業」よりも、「親子で行ける場所」とか「親子が集まれる空間」の方が関心をもつ人が多いのではないか。

地域子ども・子育て支援事業の枠にとらわれず、「親子で行ける場所」という幅広いテーマに設定する。

意外と児童館のひろば事業は知られていない。どこでやっているかとかグループを知らないことが多い。自主的なグループがあったりする。

また、グループによって雰囲気やお母さん層が違ったりする。例えば、ぼけっとに集まる人は、はじめてお子さんをもつお母さんが多い。

場所へのアクセスのしやすさでグループも変わってくる。曜日や時間で集まる場所も変わる。

イベントはあった方がよいが、親子で集まれるだけでもよい。

子連れの人が集まる場所は様々。そうした情報もお母さんは知りたい。

子連れでどこに集まっているか知りたいとか、児童館に夕方も集まりたいとか、異世代の交流の場にしたいとか、いろいろ意見が出そう。

(4) 会議の委員構成

子育て中のお母さんは忙しいので、委員の区分として子育てOB枠があってもよいのではないか。

会議の継続性もあるので、保護者代表枠もできるだけ継続を認めてよいのではないか。

(以上)